

## JIS化委員会報告

2022年11月25日

### 1. 10/11 (リモート) : 第4回 JIS X 0164-11 原案作成委員会

最終原稿を確認し、JSAに提出。今後パブリックコメントへの回答はあるが、その後JIS化される。JIS化後、技術委員会での報告とNew Letterへの投稿ある。

### 2. 2022.11.14-17 23:00-26:00 (リモート) : WG 2 1 中間会議 :

深夜の11時から3時間の予定で4日間実施された。WG 2 1の規格とスタディグループ(SG)の状況報告と今後の方針について審議が行われた。より詳細な報告は、WG21からの正式な会議報告後に行う。

- WG21で出版済の規格

- ✓ ISO/IEC 19770-5 : 2015 第2版 (概要及び用語)
- ✓ ISO/IEC 19770-1 : 2017 第3版 (要求事項)
- ✓ ISO/IEC 19770-2 : 2015 第2版 (ソフトウェア識別タグ)
- ✓ ISO/IEC 19770-3 : 2016 第1版 (権利スキーマ)
- ✓ ISO/IEC 19770-4 : 2017 第1版 (資源利用測定)
- ✓ ISO/IEC 19770-8 : 2020 第1版 (Mapping) <https://itamstandards.org/19770-8/>
- ✓ ISO/IEC 19770-11 : 2021 第1版 (認証・監査機関への要求事項)

- WG21で開発中の規格

- ✓ ISO/IEC 19770-1 : 202x 第4版 (要求事項) : 数回の事前的な会議を開始、改版に当たっての方針が報告され、審議を行った。・Risk の軽減だけでなくコスト削減、運用改善にも焦点を当てる、・PDCA構造の明確化、・申請書の明確化、・TiersからFinOpsに沿ったフェーズ、プロセス改善、・55000へのフォーカスを減らす、・略語定義の明確化、・非必須項目、・管理システムへの追加変更などが方向性として提示された。
- ✓ ISO/IEC 19770-2 : 202x 第3版 (ソフトウェア識別タグ) : 米国の大統領令のS-Bom対応やJason対応などで遅れているが投票に向け進んでいる。また、Linux Foundation (SPDXを推進)にもコンタクトしている。
- ✓ ISO/IEC 19770-3 : 202x 第2版 (権利スキーマ) : 変更の要求をあまり受けていないこともあり、進んでいない。ただ、他のTagを議論するなかでの改版は必要であり、別のEditorを割り当てることも必要 (現在はEditor:John, Co-editor:Ben)。
- ✓ ISO/IEC 19770-4 : 2017 : ISOで5年ごとの見直しSR (Systematic Review) 投票が行われている。日本のSC7専門委員会では、SR投票でConfirm回答している。WG21としては、第2版を検討しているがまだ結論は出でていない。
- ✓ ISO/IEC 19770-5 : 202x 第3版 (概要及び用語) : SC7には、WG21としてCD・NWの投票申請は行っている。り近々SC7からの投票が実施される予定。
- ✓ ISO/IEC 19770-6 : 202x 第1版 (ハードウェア識別タグ) : CD投票ではネガティブなコメントはなかったのでコメントを反映し、DIS投票に進んでいる。11/16に投票が開始された。日本ではWG21でDIS文書へのコメントを募集中。
- ✓ ISO/IEC 19770-7 : 202x 技術レポート (タグオーケストレーション) : 情報構造系の標準がすべ

て関係することから、方針を含め議論が WG21 内で行われている。

- ✓ ISO/IEC 19770-9 : 202x 第 1 版 (ITAM インベントリスキーマ) : 初期段階としての議論が SG 内で行われている。
- ✓ ISO/IEC 19770-10 : 202x 第 1 版 TS (ITAM 導入ガイダンス) : TS (技術仕様書) のドラフトの変更内容と追加の内容が説明された。各 SG からの文書が附属書に追加されている。WD は ISO-IEC JTC 1-SC 7-WG 21\_N2193\_19770-10 v1.9 2022 11 02.pdf として登録されている。
- ✓ ISO/IEC 19770-12 : 202x 第 1 版技術仕様 (オープンソース・仮想コンテナ) : 見るべき進展はないが、White Paper のようなものを出そうと思っているとのこと。Technical Specification とするかどうかはまだ分からぬ。
- ✓ ISO/IEC 19770-13 : 202x 第 1 版技術仕様 (サステナビリティ) : 現在、White Paper が ITAM Forum と WG21 のホームページで公開されている。今後、ISO の TS となるように議論を深めたい。
- SG の状況
  - ✓ ITAM Charter & WG21 Strategy : 特に進展はない。
  - ✓ ITAM Implementation Guidance : 19770-10 と一緒に報告。
  - ✓ ITAM and Cybersecurity & Blockchain : CISCO の Yuri が率いていたが、担当が変わったので今後 Martin がリーダとなる。
  - ✓ ITAM OpenSource & Virtual Containers : Trent が引き続き担当する。
  - ✓ ITAM and Sustainability : リーダを Martin から Jan に変更することになっていたが今回 Martin が報告。White ペーパーは、HP で公開されおり、活動としてはあまり変更がない。
  - ✓ ITAM and FinOps : FinOps Foundation と合同 Meeting を開催している。 詳細は、<https://events.finops.org/special-interest-group-itam/> を参照。資料は、GoogleDrive にあるがメンバーになる必要がある。
- 新しい ITAM の話題 : コンビナーの Ron が毎回 ITAM で注目されているトピックスについて報告しているが今回は次の 3 点が紹介された。
  - ✓ ITFM/TBM (IT Financial Management/ Technology Business Management) : TBM は ITFM の技術の一つで TBM Council (User 数 10,000 以上) で推進されている。<https://www.tbcmouncil.org/> を参照。
  - ✓ CAASM (Cyber Asset Attack Management) : 新しい考えではないが 2 年くらい前から Gartner の報告で言われるようになった。セキュリティチームが永続的なアセットの可視性と脆弱性の課題を解決できるようにするためのテクノロジで、既存のツールとインベントリなどデータからデータを集約して、組織の攻撃対象領域全体の継続的な多次元ビューを提供するというもの。IT アセットのすべての情報が対象となるので ITAMS が重要となる。
  - ✓ Composable business : これも Garter の考えですが、シャドウ IT がビジネスをリードする IT になり今後は「Composable business」でなければならないということです。多様な変革のなかにあって企業の色々な機能がモジュール化され柔軟に構成、再構成が行えるようになっていなければならないということです。ここでも ITAMS が重要になってきます。
- 今後の会議予定
  - ✓ Monthly Meeting 25 January 2022 Virtual
  - ✓ Plenary Meeting 5-9 June 2023 Okayama, Japan (Confirmed) Hybrid

以上